

◇丹後大学駅伝 第79回関西学生対校駅伝競走大会◇

2017年11月18日(土) 丹後地方コース(京丹後市～宮津市) 8区間 84.4Km

【総合順位】

順位	大学名	記録	順位	大学名	記録
1	関西学院大	4:18:09	12	大阪大	4:32:07
2	立命館大	4:18:46	13	同志社大	4:35:29
3	京都産業大	4:21:39	14	佛教大	4:35:34
4	関西大	4:22:25	15	奈良学園大	4:37:38
5	龍谷大	4:24:53	16	神戸大	4:38:06
6	大阪経済大	4:25:57	17	甲南大	4:39:45
7	近畿大	4:28:00	18	大阪教育大	4:40:12
8	京大	4:28:55	19	京都教育大	4:45:18
9	びわこ学院大	4:29:00	20	兵庫県立大	4:47:44
10	大阪体育大	4:30:29	21	大阪府立大	4:49:56
11	大阪学院大	4:30:58	22	大阪市立大	4:54:20

【区間成績】

区間	距離	氏名(学年)	通過記録	順位	区間記録	順位
1区	9.0km	桂 翔太(3)	0:29:12	20	29'12"	20
2区	8.0km	井上敬太(3)	0:57:42	19	28'30"	18
3区	7.0km	丸岡克成(M1)	1:19:56	19	22'14"	18
4区	9.8km	池内真弥(3)	1:53:06	18	33'10"	17
5区	12.3km	坂元亮介(4)	2:32:20	16	39'14"	7
6区	13.3km	根本夏生(2)	3:17:26	17	45'06"	17
7区	13.3km	平井大誠(2)	3:59:54	15	42'28"	14
8区	11.7km	矢田絢介(1)	4:38:06	16	38'12"	15
総合	84.4Km	神戸大学	4:38:06	16	-	-

丹後駅伝を振り返って

駅伝主将：桂 翔太

今年も一年間シード権獲得を目標に練習してきました。しかし駅伝本番まで調子の上がるメンバーが少なく、記録会でも良い記録が出ていませんでした。そのような状態で本番に臨み、16位と惨敗でした。メンバーのコメントでも反省の弁が多く述べられており、選手にこのような思いをさせてしまい駅伝主将として責任を感じています。そして今回の駅伝に期待して下さったOB・OGの皆様には16位という結果を報告することとなり、本当に申し訳ありませんでした。

今後はこれまでの反省点を改善し、関西インカレに向けてもっと強いチームにしていきます。さらに来年の駅伝では、私は駅伝主将ではありませんがみんなを支えチーム一丸となり今回の借りを返します。今回はご声援ありがとうございました。



～ 選手より一言 ～

1区：桂 翔太(3)

流れを決める重要な1区で悪い流れを作ってしまった。これまで走った駅伝でも最も悪い結果となり責任を感じています。来年もチャンスがあるのでもっと強くなって今回の借りを返したいと思います。ご声援ありがとうございました。



4区：池内 真弥(3)

4区を任せましたが厳しい走りとなり、思うような結果を残すことができませんでした。この悔しさを来年の関西インカレ、駅伝で晴らせるように一年間練習に励みたいと思います。応援して頂きありがとうございました。

2区：井上 敬太(3)

中継所時点で前の集団と約20秒差あり、前半で追いつこうとしましたがオーバーペースになってしまい後半の急激な登り坂で苦しい走りになってしまいました。来年は自分の力を発揮出来るように、また1年間がんばります。応援ありがとうございました。



3区：丸岡 克成(M1)

最短区間の三区でチームの流れを変えられず大変悔しく思います。夏から調子を上げることができず、今回の結果も実力不足の一言に尽きます。練習への取り組み方をもう一度見直し、来シーズンは自分の走りができるよう頑張りたいと思います。

5区：坂元 亮介(4)

みんなを頼っていた去年とは逆に頼られる立場での駅伝となりました。十分に期待に応えることは出来ませんが、個人的には気持ちの上がる展開の中で有終の美を飾ることが出来たと思っています。ただ、今年のチームの結果には非常に悔いの残るところがあります。来年に残るメンバーには今年のリベンジも含めて、僕の走りが無駄では無かったと思えるような駅伝をして欲しいと願っています。今年はお声援ありがとうございました！僕と一緒に来年もお声援よろしくお祈りします！



8区: 矢田 絢介(1)

駅伝に向けてずっと調整を進めてきたので、自分の力を存分に発揮でき、“補欠”としての役目を果たせたと思います。しかし、結果は満足できるものではなかったため、この悔しさを次のインカレで晴らせるよう、今後はさらに質の高い練習に取り組んでいきます。



6区: 根本 夏生(2)

今年の6区は各校のトップ選手が集まり厳しい戦いになることは分かっていましたが、調子が良かったので自分はどこまで走れるのかを挑戦する気持ちで臨みました。結果、自分の実力を出し切ることは出来ましたが、他大の選手との力の差を痛感しました。今後はこの区間で勝負できるくらいの実力をつけて来年の駅伝を迎えられるよう努力していきます。



ご声援ありがとうございました!

ご来援下さったOBの皆様(敬省略)

加藤善典(新 17) 椎木茂久(新 17) 依田泰吉(新 17)
 平田明男(新 18) 絹田清昭(新 21) 森口智夫(新 27)
 矢野 猛(新 27) 二口正紹(新 28) 山本達男(新 30)
 高橋幸秀(新 37) 東 達也(新 61) 嶋田 凌(新 62)
 日比鷹平(新 62) 野喜崇裕(新 63)

7区: 平井 大誠(2)

序盤から足が痛くて失速し何度も心が折れかけましたが、応援のおかげでなんとか集団に追いつけました。最後に競り負けてしまったことも悔やまれますが、それ以上に実力不足でした。応援ありがとうございました。



丹後大学駅伝応援記

新61回 東 達也

今回の丹後駅伝を62回嶋田、日比、63回野喜の3人と現地へ駆けつけた。前日に民泊ひびに宿泊するなど今年もハードなスケジュールを敢行し、可能な範囲でスタート地点からレースを追いかけ応援を行った。当日の選手の様子を記したいと思う。

1区は桂くん。1回生の頃から長距離区間を任せられ、今年は駅伝主将も務める力のある選手だ。スタート前は緊張しつつも笑顔を見せてくれ、アウトコースから落ち着いたスタートを見せてくれた。しかし、駅伝にむけて思うように調子を上げることができなかつたようで、駅伝主将としてのプレッシャーもあったのだろう、区間20位での苦しいスタートとなった。

2区は井上くん。力はあったが故障が多く、3回生で初めての駅伝メンバーとなった。普段は朗らかな表情の彼だが、集中した様子でアップをし桂からのタスキを待っていた。前と差がある難しい場面からのスタートであったが、急な上り坂が続く難コースで区間18位、順位を1つ上げて19位とした。

3区は丸岡くん。これまでエースとしてチームを支えてきた彼も院生という立場になった。今年は思うように練習を積むことができなかったようで、彼本来の力を考えると少し物足りない区間配置での起用となった。2区とは逆に坂を駆け下りるこの区間の苦しいラスト1キロを苦しみながらも駆け抜け、順位を維持して4区の池内くんへタスキをつないだ。

4区は池内くん。医学部で練習に参加することが難しい場面もあるようだが、駅伝メンバーとして調整する力をみせてくれた3回生。スタート前は彼らしい飄々とした様子を見せてくれ、先輩から受け取ったタスキを一つ順位をあげて18位としてくれた。

5区は坂元くん。今年が最後の駅伝となる4回生だ。関西インカレでも好記録・好成績を収めてくれた彼は駅伝に向けてさらにパワーアップし、直前の10000mでも好記録を出してくれていた。彼らしいピッチ走法で前半を颯爽と駆け抜け、最後まで切れのある走りのまま区間7位の快走をみせてくれた。全体の順位は2つ上がり、16位となった。

6区は根本くん。7区と同じく最長区間を任せられた、安定感が持ち味の2回生。周りに力のある選手が集まる苦しい区間であったが、粘り強い走りを見せてくれ、17位でタスキをつないでくれた。

さて、ここまで快調に各区間を周り続けていた我々応援団であったが、ここで交通規制に巻き込まれてしまい直接の応援は断念。途中道を間違えるアクシデントにも見舞われながら、ゴール地点を目指した。

レースは7区平井くん。根本くんと2回生コンビでの最長区間となった。夏場から調子が上がらず苦しんでいた様子の彼だったが、繰上げスタートながら順位を2つ上げて15位としてくれた。

8区は矢田くん。直前に駅伝を走るようになった1回生だ。突然のメンバー変更にも、1回生ながら区間15位と力を発揮してくれ、16位でのゴールとなった。

全体としては、強豪京都産業大学が出遅れる波乱の展開から、関西学院大学が2位の立命館大学を引き離しての優勝を決めた。京都産業大学が3分以上遅れての3位など、今後の長距離の勢力図がこれを機に変わるのではという予感を覚えた。

今年は昨年度シード権を獲得したメンバーが多く残っているチームで、駅伝に向けてメンバーの成長を楽しみにしていたが、思うように調子を上げることができなかったメンバーが多かったようだ。この駅伝は悔しい結果となってしまっただろう。ただ、多くのメンバーは昨年度目標を達成した喜びと今年思うように走れなかった悔しさの両方を味わっている。来年も力のあるメンバーが多く残るので、昨年成功した要因、今年失敗した原因をしっかりと振り返り、来年はぜひ自分たちが自信を持って楽しかったと言える駅伝にして欲しいと思う。

来年はベストコンディションで駅伝を走ると宣言してくれた丸岡くんの言葉に期待を込めて、観戦記の結びとする。